

久慈市 荷軽部地区教育振興協議会

- 「
テ
ー
マ
」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『人と関わる文化活動を地域とともに』

～荷軽部太鼓を通じたコミュニティ再生の取組み～

1 地域の教育課題

久慈市山形町内では、児童数の激減による学校の閉校が続き、平成 22 年度には繫小学校、日野沢小学校が、平成 23 年度には戸呂町小学校と、荷軽部小学校が閉校し山形小学校へと統合された。

そのような中で、子どもを中心に、地域のコミュニティを維持し続けていくためには、教育振興運動が必要だととらえ、荷軽部小学校閉校後も、継続して活動をしている。

2 役割分担と年間の計画

荷軽部地区は、以下の構成団体で組織されている。

- 親 … 山形小学校荷軽部地区PTA
子ども…山形小学校荷軽部地区子ども会
学校… 山形小学校（荷軽部地区）
地域… 荷軽部地区自治会
荷軽部老人クラブ
荷軽部青年会
行政… 山形公民館（久慈市教育委員会）

閉校前は、荷軽部小学校の学校行事に合わせて、七夕集会の活動や、荷軽部太鼓の披露、老人クラブを中心とした、縄ない・昔遊び・蕎麦うち、綱引き大会への参加、親子文集の制作等に取り組んできていたが、本年度は、更に児童数が減少したこと、学校単位での活動が不可能になったこともあり、荷軽部太鼓の取組みに特化して、活動を進めてきた。

3 取組の様子

荷軽部太鼓は、荷軽部小学校の運動会や学習発表会で発表することから始まり、平成 23 年度は、8 月 6 日開催の久慈あきんどまつりの中の『がんばろう東北！太鼓フェスティバル』や、3 月 26 日開催の『ご当地グルメ&キャラクターまつり』、3 月 28 日には盛岡の郷土芸能フェスティバルに出演してきた。

また、地域から発信しているB-1グランプリの『久慈まめぶ部屋』の活動とも連携して、7 月 24 日には久慈みなと復興祭にも出演した。

このように、地域の大人ともつながりを持ち、地域伝承を通して、子どもを育む活動は、地域から発信する教育振興運動の理想的な姿であるように思う。

しかし、この活動も、教育振興運動の核となる地域の学校が閉校してから、活動が縮小する傾向にあるが、現在も、荷軽部青年会の指導をいただき、月 1 回の活動を継続し地域文化を継承している。

子どもたちの活動を通し、地域の振興にもつなげることができる教育振興運動の組織や、活動のあり方を、今後も検討しながら、地域がまとまって取り組んできた活動に今後も継続的に取り組んでいきたい。

4 課題解決を判断する評価の方法

子どもを中心にしながら、地域のコミュニティ活動が活発になされることが、評価の全てである。

現在、全国的に評価を受けつつある同地区発信の『久慈まめぶ部屋』のように、外部からの評価を受けるためには、活動した内容を、きちんと何らかの形で発信していくことも、次へのステップへと続く、客観的評価を得られる手段ではないかと考える。